



依頼者	豊田市立東広瀬小学校
タイトル	川での水生生物調査
<p>コーディネーターへの相談内容</p> <p>○依頼者のご要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川での環境学習に同行していただき、水生生物に詳しい講師を紹介してほしい。 ・昨年度の講師（矢作川研究所の内田氏）に本年度も依頼してほしい。 	
<p>コーディネーターの対応</p> <p>○外部講師の紹介</p> <p>昨年度と同じ講師、豊田市矢作川研究所研究員・環境カウンセラーの内田朝子氏に依頼した。内田氏は矢作川の豊かできれいな水の回復、人々の生活にうるおいとゆとりを与える川づくりを目指して、調査・研究活動をしている。</p> <p>○学習内容の提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度実施した際の反省を踏まえ、①事前の授業内容の説明を丁寧かつ詳細に行うこと、②適切な観察場所を選定すること ・特に観察場所の選定については、既に調査を行った川の規模や調査内容、授業当日の時間などを考慮し、いくつか候補を挙げて、その中から最も適する場所とすること 	
<p>学習内容と当日の様子</p> <p>地域の川の、CODパケットによる水質検査、透視度計による水質調査、水流速度調査、指標となる水生生物の捕獲、観察を実施した。外来生物を捕獲した理由や水を汚さないために自分たちができることを考え、話し合う時間を持った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">(川の調査の様子)</p>	
<p>コーディネーターに対する感想</p> <p>○依頼者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川の生物について、詳しい方を紹介していただき、子どもは勿論、教員自身も勉強になった。 <p>○外部講師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このような機会を重ねることで、先生自らが指導できるように導くことも大切である。 ・野外でおこなった実習が子どもたちの日常につながることを望む。 ・学校周辺の自然環境に対する学習の進捗状況について、事前に十分把握しておくことが重要と考えます。 <p>子どもたちが身近な自然に触れることで、「楽しい」、「不思議」を感じ、自然科学や社会科学に興味を深めるきっかけとなることを願う。</p>	
<p>その他</p> <p>特になし</p>	

依頼者	瀬戸市立道泉小学校
タイトル	「ウサギの飼育」を通して命や環境の大切さを伝える授業
<p>コーディネーターへの相談内容</p> <p>○依頼者のご要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ウサギの飼育」を通して命の大切さを伝える授業を実施したい。 ・今年度も昨年度の講師（岩倉動物病院 院長 加藤英樹氏）を依頼してほしい。 	
<p>コーディネーターの対応</p> <p>○外部講師の紹介</p> <p>昨年度と同じ講師、岩倉動物病院 院長 加藤英樹氏に依頼した。加藤氏は動物病院で診療を行っており学校側から直接加藤氏への連絡等が困難なこともあり、今年度もコーディネートを引き受けた。</p> <p>○学習内容の提案</p> <p><講師に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任からウサギの飼育状況と児童の学習状況を踏まえて当日の授業に要望する内容を具体的に聞き、具体的な飼育の話と共に講師が行っている命の大切さの授業とつなぎ、担任と講師の意向が食い違わないようにすること <p><依頼者に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師が児童の関心事を理解できるように、事前に児童から講師への質問を手紙にして届けてもらうこと ・環境学習が単なる出前授業にならないように、事前・事後学習に力を入れること 	
<p>学習内容と当日の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童から講師への事前の質問シートを返却し、自分の質問を思い出してもらう ・獣医という仕事について ・ウサギの生態・生育環境について ・ウサギの心臓の音と自分の心臓の音を比べる(代表生徒数名が実際にウサギに聴診器をあてる) ・なぜ働かなければならないか(どうして加藤先生が獣医さんになったか) ・生きるって何だろう <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>(講師のお話を聞く様子)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(ウサギの飼育小屋で飼育について学ぶ様子)</p> </div> </div>	
<p>コーディネーターに対する感想</p> <p>○依頼者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、引き受けていただき、子どもたちを引き付けるお話、考えさせるお話をして頂き、ありがたかったです。 ・子どもたちの感想からも講師の先生のお話が良かった事が分かります。 ・短い時間の中、必要な内容を十分に入れていただきありがとうございました。 ・事前に会って打ち合わせたり、FAX で連絡を頂いたり、とても助かりました。 	
<p>その他</p> <p>特になし</p>	

依頼者	春日井市立松原小学校
タイトル	牛乳パックを使ったハガキ作りとリサイクル
<p>コーディネーターへの相談内容</p> <p>○依頼者のご要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境学習の時間に、牛乳パックを使ったハガキ作りと紙のリサイクルと3Rについて話ができる講師を紹介してほしい。 ・授業の実施に当たっては、体験を必ず入れてほしい。 	
<p>コーディネーターの対応</p> <p>○外部講師の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント等でリサイクル工作をしている企業や、環境NPOをリストアップし、授業内容や日程調整の結果、NPO法人中部リサイクル運動市民の会代表の永田秀和氏と浅井久美氏に依頼をした。 <p>○学習内容の提案</p> <p><ESDの視点や手法を交えて授業に取り入れること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識や情報を教える一方向の授業だけではなく、参加型・体験型プログラムを重視した授業にすること ・環境問題を自分の問題、「自分事」として捉え、認識し、「自分は何をすればよいのか」「自分には何ができるのか」について、個人ワーク、ペア学習、グループワーク、全体討論など話し合いの時間を持つこと ・未来の地球、未来の愛知、未来の春日井市を想像し、どんな町、環境だったら暮らしやすいか、そのためには今何をすればよいのかについて、「リサイクル」を通じて話し合いの時間を持つこと <p><講師に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・工作のみの体験で終わらないように、振り返りをていねいに行い、体験したことを学びにつなげること ・体験や学びから「自分達には何ができるのか」を考え、行動に結びつくようなプログラムにすること（牛乳パックの分別や、3Rの行動につながる学習にすること） ・リサイクルだけでなく、リデュース、リユースの3Rを理解できる、工夫したプログラムにすること <p><依頼者に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・出前授業での学びを活かすための、事前・事後学習に力を入れる（事前に3Rについて振り返る授業を行い、事後に自分たちに何ができるかを考える授業を行う）こと ・当日出された意見を児童がまとめ、発表する時間をもつこと ・学習したことを、日々の行動につなげるように促す（親に3Rについて話をする、分別をする等）こと 	
<p>学習内容と当日の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「紙のリサイクル～紙はどこからやってくるか～」 紙は、森林伐採された木で作られているから大事に使わないといけないことや、森林伐採によって動物のすみかや食べものがなくなり、絶滅の危機にあることを伝えた。 ・「児童ができる行動」 「紙を大切に使う」「牛乳パックをトイレトペーパー等に再利用するためリサイクルする」「リサイクルペーパーのノートなどの文具を使う」「片面しか使っていない紙は両面使う」などを紹介 ・「3Rの説明」 クイズ形式により楽しみながら説明 	

・「紙すき体験」

ラミネートをはがした牛乳パックを細かくちぎりミキサーにかけ、どろどろにした液体を木枠の紙すき道具に入れて漉き、ハガキをつくった。

・まとめ学習

「私にできること」を考えた。



(講座の様子)

コーディネーターに対する感想

○依頼者

- ・きちんとやっていただけた。
- ・打合せをしっかりとすることができ、親切な対応であった。
- ・講座内容にこちらの思いを十分反映していただいた。
- ・打合せ以外にも電話や FAX で話をし、事前の準備もしっかりできました。
- ・講義の内容についても丁寧な打合せがあり、4年生の学習に沿った講座となりました。
- ・コーディネーターが入ったおかげで、学校の思いを十分反映した講座となりました。
- ・4年生の学習にマッチした内容でした。

○外部講師

- ・コーディネーターの提案により体験だけで終わっていない授業となり満足です。
- ・打合せで現場を見ることができ、建物の構造が特殊だったため、事前に見ることが出来て良かった。
- ・コーディネーターの提案により紙すき体験だけで終わらず、講座も一緒に行えたから満足です。
- ・時間配分をお互いにきちんと確認しておいた方がよかった。
- ・3Rの話と紙すきの体験をどう結び付けるかのフォローが大切である。
- ・学校の感想をコーディネーターから戻してほしい。今後のプログラム実施の参考になる。
- ・小学校での講座を行いたいと思っていたが、ハードルが高く、なかなか依頼がないが、このような機会があると、学校とのつながりができるためありがたい。コーディネート事業のおかげで学校側の信用があったように思う。

その他

○今後の展開

- ・これからの時代を生きていく子どもたちが環境を学ぶことはとても大切である。総合学習をはじめ、理科や社会などでも環境学習を進めて行く。
- ・3Rを普段の生活に習慣化させるよう、自分たちができることを考え、毎日の宿題にする。
- ・初めての外部講師の活用であったが、子ども達の反応もよく、環境に対する意識も向上した。今後の活用を考えたい。

依頼者	刈谷市立富士松東小学校
タイトル	環境学習「ゴミ・資源循環、3R」
<p>コーディネーターへの相談内容</p> <p>○依頼者のご要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科で「ごみ処理」を学習するため、「ごみ・資源循環、3R」のプログラムと講師を紹介してほしい。 ・授業の実施に当たっては、体験を必ず入れてほしい。 	
<p>コーディネーターの対応</p> <p>○外部講師の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント等でリサイクル工作をしている企業や環境 NPO をリストアップし、授業内容や日程調整の結果、NPO 法人中部リサイクル運動市民の会代表の永田秀和氏と浅井久美氏に依頼をした。 <p>○学習内容の提案</p> <p><ESD の視点や手法を交えて授業に取り入れること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識や情報を教える一方向の授業だけではなく、参加型・体験型プログラムを重視した授業にすること ・環境問題を自分の問題、「自分事」として捉え、認識し、「自分は何をすればよいのか」「自分には何ができるのか」について、個人ワーク、ペア学習、グループワーク、全体討論など話し合いの時間を持つこと ・未来の地球、未来の愛知、未来の刈谷市を想像し、どんな町、環境だったら暮らしやすいか、そのためには今何をすればよいのかについて、「リサイクル」を通じて話し合いの時間を持つこと <p><講師に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・工作のみの体験で終わらないように、振り返りをていねいに行い、体験したことを学びにつなげること ・体験や学びから「自分達には何ができるのか」を考え、行動に結びつくようなプログラムにする（牛乳パックの分別や、3Rの行動につながる学習にすること ・リサイクルだけでなく、リデュース、リユースの3Rを理解できる、工夫したプログラムにすること <p><依頼者に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・出前授業での学びを活かすための、事前・事後学習に力を入れる（事前に3Rについて振り返る授業を行い、事後に自分たちに何ができるかを考える授業を行う）こと ・当日出された意見を児童がまとめ、発表する時間をもつこと ・学習したことを、日々の行動につなげるように促す（親に3Rについて話をする、分別をする等）こと 	
<p>学習内容と当日の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「紙のリサイクル～紙はどこからやってくるか～」 紙は、森林伐採された木で作られているから大事に使わないといけないことや、森林伐採によって動物のすみかや食べものがなくなり、絶滅の危機にあることを伝えた。 ・「児童ができる行動」 「紙を大切に使う」「牛乳パックをトイレットペーパー等に再利用するためリサイクルする」「リサイクルペーパーのノートなどの文具を使う」「片面しか使っていない紙は両面使う」などを紹介 ・「3Rの説明」 クイズ形式により楽しみながら説明 ・「紙すき体験」 	

ラミネートをはがした牛乳パックを細かくちぎりミキサーにかけ、どろどろにした液体を木杵の紙すき道具に入れて漉き、漉いてハガキをつくった。

・まとめ学習

「私にできること」を考えた。



(講座の様子)

コーディネーターに対する感想

○依頼者

- ・複数の提案の中から学校の事情にあった講師、内容をお願いできたのがよかった。
- ・時間がどうしてもギリギリになってしまう。
- ・外部の講師に来てもらうと、子ども達の意識も変わるのでお願いしてよかった。
- ・学校内だけだとやる事が限られてくるし、準備が大変なので、コーディネート事業を活用したい。
- ・コーディネート事業を活用することで専門的な話が聞けるため、また活用したい。

○外部講師

- ・できる限り事前の打合せは電話などで済ませられると助かります。
- ・電話でも可能な内容の時は、電話でお願いしたい。

その他

○今後の展開

- ・これからの時代を生きて行く子どもたちが環境を学ぶことはとても大切である。総合学習をはじめ、理科や社会などでも環境学習を進めていく。
- ・3Rを普段の生活で習慣化させるよう、取組を継続できるよう子どもたちに目標を立てさせる。
- ・外部講師の活用は子ども達の反応もよく、環境に対する意識も向上する。今後も活用を考えたい。

依頼者	豊橋市立津田小学校
タイトル	ESD、ESD 世界会議について
<p>コーディネーターへの相談内容</p> <p>○依頼者のご要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全児童を対象にESDの学習会を行いたい。身近な環境について、ESDやESD世界会議について講義ができる講師を紹介してほしい。 ・環境学習を通して、町の発展と環境や人とのつながり、社会の一員としての自分の価値を見だし共有する基礎的な能力を育みたいと考えており、環境の領域からのESDを伝えてほしい。 ・低学年にも分かりやすい説明にしてほしい。 	
<p>コーディネーターの対応</p> <p>○外部講師の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ESDユネスコ世界会議に向けて、会議の成功のための業務を担っているESDユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会に依頼をし、ESDの最新情報を把握し、身近な環境問題から世界の状況の視点でお話しただけ、主任の鈴木麻友美氏を紹介した。 <p>○学習内容の提案</p> <p><ESDの視点や手法を交えて授業に取り入れること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識や情報を教える一方向の授業だけではなく、参加型・体験型プログラムを重視した授業にすること ・環境問題を自分の問題、「自分事」として捉え、認識し、「自分は何をすればよいのか」「自分には何ができるのか」について、個人ワーク、ペア学習、グループワーク、全体討論など話し合いの時間をもつこと ・未来の地球、未来の愛知、未来の豊橋市を想像し、どんな町、環境だったら暮らしやすいか、そのためには今何をすればよいのかについて、話し合いの時間をもつこと <p><講師に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境だけでなく、どんな仕事をしているか、なぜその仕事をしているのかを含めたキャリア教育も取り入れること ・体感することで、環境問題を自分事として認識し、自分は何ができるかを考えるきっかけにすること ・学習から行動（実践）に移す、動機づけとなる内容（プログラム）にすること ・学年が1～6年生であるため、理解のレベルに差があり、低学年にも理解できる資料として「ESDクエスト」を配布すること ・一方的な話にならないように、投げかけや質問をするなどの工夫をすること <p><依頼者に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・出前授業での学びの効果を活かすために、事前・事後における学習の組み立てを考えること ・学びが継続的に積み重なるように、教員と講師が連携し、事前・事後の授業案を考えること ・事後学習に、出前講座での気づきの発展である、「自分たちに何ができるか」を考える授業を行うこと ・個人の学びを深めるために、班で意見をまとめて発表すること ・児童が実際に行動できるよう促す（親に話す等）こと ・体感することで、環境問題を自分事として認識し、自分は何ができるかを考えるきっかけとすること 	

学習内容と当日の様子

・最初に ESD ユネスコ世界会議について説明し、「ESD ってなんだろう？」という題のもと、ESD とは何か、持続可能な社会とは何か、私たちにできることは何か、の3点についてのお話をした。映像、クイズなどを交えながら児童の関心を高め、わかりやすい言葉で、子どもに考えさせながら授業を進めた。身近なことから環境問題につなげ、自分の日常は過去・未来・世界の人とつながっていること、一人ひとりに世界を変えていく力があることを伝えた。最後に学んだ内容を踏まえ、全体で「私にできること」を考える時間をもった。



(講座の様子)

コーディネーターに対する感想

○依頼者

- ・打合せでは、コーディネーターに入ってもらい、適切に意見交換が行えました。
- ・第2回を実施したいと思う成果が十分ありました。
- ・私のニーズに十分対応・努力していただき、心より感謝申し上げます。

○外部講師

- ・小学校の児童が対象となると、ESD よりも SD の話のみをした方が、伝わりやすいかとも思った。
- ・早いタイミングで打合せができ、主旨や希望がよくわかった。
- ・打合せなど、具体的な要望を伺うことができ、よかった。また、最後のまとめについても、こちらの足りない部分をフォロー頂けてよかった。

その他

○今後の展開

- ・継続的に ESD の講座を行うことにより、理解を深めていく。
- ・未来を考える思考を普段の生活において習慣化できるよう、授業の中でも問い続ける。
- ・外部講師による講座は子ども達の反応もよく、環境に対する意識も向上した。今後の活用を考えたい。

依頼者	長久手市立東小学校
タイトル	環境学習「絶滅危惧種」について
<p>コーディネーターへの相談内容</p> <p>○依頼者のご要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合学習の時間で行っている環境学習の一環として、ゲーム形式等で楽しく体験できるプログラムを紹介してほしい。 ・児童の関心が高い「絶滅危惧種」についての学習を深めたい。 	
<p>コーディネーターの対応</p> <p>○外部講師の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の関心の高い「絶滅危惧種」について楽しく学べる体験ゲーム、講師を引き受けてくれる NPO または行政をリストアップし提案をし、体験プログラム「島津製作所のカードゲーム『bidi』（外部講師による使用禁止）」、講座講師 環境省 中部地方環境事務所 野生生物課 秋本紘子氏を紹介した。 <p>○学習内容の提案</p> <p><ESD の視点や手法を交えて授業に取り入れること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識や情報を教える一方向の授業だけではなく、参加型・体験型プログラムを重視した授業にすること ・環境問題を自分の問題、「自分事」として捉え、認識し、「自分は何をすればよいのか」「自分には何ができるのか」について、個人ワーク、ペア学習、グループワーク、全体討論など話し合いの時間をもつこと ・未来の地球、未来の愛知、未来の長久手市を想像し、どんな町、環境だったら暮らしやすいか、そのためには今何をすればよいのかについて、話し合いの時間をもつこと <p><講師に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験ゲームでの学びを活かした、授業内容にすること ・絶滅危惧種と人間とのつながりが理解でき、日々の日常の行動変容につながる授業にすること ・環境省及び環境省レンジャーの仕事について説明をし、自然を守る仕事の大切さを伝えること <p><依頼者に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験ゲームが、「楽しかった」だけで終わらないように、そこで得た学びを積み重ねる授業構想をつくり、外部講師との打合せを行った際に明確に伝えること ・当日の環境学習の前に再度、振り返ること ※話題提供程度でも可 ・事後学習として自分たちに何ができるかを考える授業を行うこと ・児童の意見を聞き合う時間、まとめて、伝えあう発表の授業を設けること ・学んだことを実際の行動につなげられるような工夫をした授業を事後展開すること ・今回の学びが継続的に積み重なるように、講師と連携すること 	
<p>学習内容と当日の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境省 自然保護官「絶滅危惧種」「絶滅原因」の説明。その後、藤前干潟で採取した3種類のカニの観察、藤前干潟保全の説明 ・絶滅危惧種の生きものが描かれたカードゲーム「bidi」の実施。地球上のどの地域で、どんな生きものが、なぜ絶滅しそうなのか、また保護することによって絶滅から守られることなどを楽しみながら学んだ。 ・まとめ学習として、絶滅の理由を学び、未来はどのようにになるとよいかを考え、自分はどうしたらいいのか、を全体で考える時間をもった。 	



(講座の様子)

コーディネーターに対する感想

○依頼者

- ・コーディネーターには迅速な対応をしていただき、ありがとうございました。
- ・講座内容に体験活動を入れていただき、よかったです。
- ・現場の方を紹介していただき、感謝いたします。
- ・カードゲームのルールのやさしいバージョンも作っていただけると、学年が異なっても時間内で行うことができますと思いました。



○外部講師

- ・事前に学校の先生とお話しできる機会があると、日頃から興味をもっていることや、既学習内容が分かり、より良い授業ができると思います。

その他

○今後の展開

- ・今回、初めての外部講師の活用であったが、子どもたちの反応もよく、環境に対する意識も向上した。今後の活用を考えたい。
- ・これからの時代を生きていく子どもたちが環境を学ぶことはとても大切である。総合学習をはじめ、理科や社会などと連携し、総合での学びが活かされるように環境学習を進めていく。

依頼者	東浦町立森岡小学校
タイトル	ごみの減量につながる体験学習について
<p>コーディネーターへの相談内容</p> <p>○依頼者のご要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ごみを減らす」をテーマにした体験学習を行うことができる講師を紹介してほしい。 ・最終的には家庭科等の時間も使って身近な『くらし』と結び付けた授業を実施したい。 	
<p>コーディネーターの対応</p> <p>○外部講師の紹介</p> <p>ごみを減らすことにつながる環境学習を行うことができる講師として①3R推進マイスター、②「これはごみですか？」という体験学習を行う環境学習講師、③すごろくで「ものの一生」を考えるワークショップを行う「エコが見える学校」、④紙すきの体験学習、⑤東浦町環境課環境衛生係を紹介した。依頼者と調整し、半田市社会教育委員会 地域開発みちの会 加藤美幸 氏（地球温暖化防止活動推進員、知多自然観察会、半田市環境パートナーシップ委員、半田食育グループ MOKO）に依頼した。</p> <p>○学習内容の提案</p> <p><講師に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・単発の出前授業にならないように、事前事後の授業の成果を把握し、授業内容を組み立てる。そのために依頼者との打合せを十分に行うこと ・児童の関心が高いため、児童が話し合う場をすること <p><依頼者に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加型手法を取り入れた授業にすること ・単発の出前授業にならないように、事前事後の学習に力を入れること ・児童の学習と考え意見のまとめが形になって残り、今後の生活に取り入れられるような工夫をすること 	
<p>学習内容と当日の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみと地域のお話 ・【ワークショップ】ごみを減らすにはどうしたらいいかを考える ・【体験学習】風呂敷を使う技を知る～昔の生活を見直そう、風呂敷を使ってみよう ・【ワークショップ】行動を起こすための宣言をする～未来の地球へのエコ宣言 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>(ワークショップの様子)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(ワークショップでの発表の様子)</p> </div> </div>	



(体験学習の様子)

コーディネーターに対する感想

○依頼者

- ・楽しめる講座を行っていただける講師を紹介いただけで満足
- ・2度の事前打ち合わせを行ってしっかりやって頂けた。
- ・こちらの要望をくみ取って頂き、とてもありがたかったです。
- ・学習内容を相談しながら組み立てていく事ができるのがよいです。



○外部講師

- ・時間や内容など、的確なアドバイスをいただくことができ満足です。
- ・コーディネーターを介しているの、直接連絡しなくてすみません。満足です。
- ・今回初めて市外の小学校でゴミの分野の環境について講師をさせていただき、大変勉強になりました。
- ・初めての地域の学校でも講師をつつがなく行えたのは、授業までの学校とのやりとりにおいてコーディネーターの配慮があればこそだと思います。

その他

○今後の展開

- ・授業の最後に子どもたちが緑色の画用紙を葉っぱ型に切った用紙に記入した「未来の地球へのエコ宣言」を後日、大きな木の葉っぱとなるように貼りつけ、学年全体のエコ宣言の木として掲示する。

依頼者	豊橋市立津田小学校
タイトル	身近な環境、ESD やESD ユネスコ世界会議について（教員向け）
<p>コーディネーターへの相談内容</p> <p>○依頼者のご要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員を対象とした身近な環境と、ESD やESD ユネスコ世界会議について講義ができる講師を紹介してほしい。 ・校外学習や教科とESD がいかにつながるか、また、授業での工夫や手法など、「ESD を授業に取り入れる」方法について教えてほしい。 	
<p>コーディネーターの対応</p> <p>○外部講師の紹介</p> <p>ESD を持続的に取り組むための教員向け研修を行っている環境省中部環境パートナーシップオフィス チーフプロデューサー 新海洋子氏を紹介した。</p> <p>○学習内容の提案</p> <p><講師に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ESD がなぜ必要なのか、概念と手法を説明すること ・他の学校のESD 取組を紹介すること ・ESD 授業のつくりかたのノウハウを紹介すること ・教員が参加しながら学びあえる場を提供すること ・ESD の資料を持参し、講座時間内で伝えられないことは、資料で補うこと <p><依頼者に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に実施した各学年のESD の取組、学校におけるESD への取組方針の資料を事前に講師に伝えること ・参加型の研修にするため、教員に対して、ESD 授業づくりに対する質問、課題を事前に考えていただくこと ・ESD に対する話を講座の事前事後に職員同士で話し合う場をつくること 	
<p>学習内容と当日の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初に、参加型対話形式により「今なぜESD が大切なのか」を全員で考えた。 ・「全ての人々の学び合い」「未来へと持続する社会をつくる」ための教育がESD であること、学校教育においてESD の取組は必須であることを説明 ・現在、各学年が行っている授業へのESD の取り入れ方のアドバイスと、他の学校での実践例の紹介 ・最後に、ESD の実践は、学年連携が必須であり、学校全体で教員が一丸となって授業カリキュラムをつくること、教員の支援体制づくりについても説明 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;"><講座の様子></p>	

コーディネーターに対する感想

○依頼者

- ・打合せでは、コーディネーターに入ってもらい、適切に意見交換が行えました。
- ・私のニーズに十分対応・努力していただき、心より感謝申し上げます。
- ・今度はワークショップの「質問」を教えていただければ幸いです。

○外部講師

- ・事前に資料準備をしていただき、研修内容を具体的に作成することができた。
- ・打合せに参加することはできなかったが、後日内容を報告いただき、理解することができた。ただし、重点的に話す部分の調整をすればよかった。
- ・先生と振り返る時間が少ししかなかった。学校や教員のニーズにより対応できるよう改善点などお聞きできればよかった。
- ・事前の調整や打合せ、当日の準備等をありがとうございました。当日のサポートありがとうございました。
- ・コーディネーターがいることによって、直接学校とのやり取りをすることなく、打合せの報告を受け、授業づくりや資料づくりができるため、有効な機能だと思う。一方で、学校側のニーズを十分に把握すること、実施する側の講師のノウハウや提供するプログラムを十分に吟味する必要があると感じます。そこがマッチングの難しさでもあり、コーディネーションのノウハウだと感じます。今回は、とてもうまくいきました。感謝です。

その他

○今後の展開

- ・教員が理解することが大切であり、今後授業づくりを学ぶ時間を継続的に続ける。
- ・学校全体で ESD に対する取組を習慣化・継続できるよう教員に目標を立てる。
- ・教員の反応もよく、環境や ESD に対する意識も向上した。今後も本事業の継続、活用を考えたい。

依頼者	東海市立横須賀小学校
タイトル	「水」をテーマにした体験学習について
<p>コーディネーターへの相談内容</p> <p>○依頼者のご要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間で行っている「環境学習」のまとめの授業で、水に関する体験学習を実施するため、講師を紹介してほしい。 ・すでに授業実施の日時が決まっているため、早めに回答してほしい。 	
<p>コーディネーターの対応</p> <p>○外部講師の紹介</p> <p>環境パートナーシップ・CLUB (EPOC) の次世代育成分科会の環境教育講座に参加している日本ガイシ株式会社環境経営統括部 マネージャー 水野朝夫氏を紹介した。</p> <p>○学習内容の提案</p> <p><ESDの視点や手法を交えて授業に取り入れること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識や情報を教える一方向の授業だけではなく、参加型・体験型プログラムを重視した授業にすること ・環境問題を自分の問題、「自分事」として捉え、認識し、「自分は何をすればよいのか」「自分には何ができるのか」について、個人ワーク、ペア学習、グループワーク、全体討論など話し合いの時間を持つこと ・「水」の学習を通して、未来の地球、未来の愛知、未来の東海市の環境を想像し、どんな町、環境だったら暮らしやすいか、そのためには今何をすればよいのかについて、話し合う時間を持つこと <p><講師に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業が、なぜ環境学習を実施しているのか、なぜ「水」をテーマに実施しているのかについて説明をすること ・日々の企業での水に関する取組について紹介すること ・小学4年生が理解できる内容にすること ・体験が学びに重なり、児童の環境行動・実践の動機付けになるような授業にすること ・キャリア教育として、仕事内容を伝えること ・実験だけでなく、実験に関わる環境「水」「森」について学ぶ講座を行うこと <p><依頼者に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間で実施している総合的な学習の「環境学習」の一連を講師に説明し、出前講師による授業が関連性を持ち、これまでの学びがより活かされるよう講師と綿密な打合わせをすること ・体験を体験のみで終わらせないために座学を行うが、後日学びのふりかえりを行う。同時に、本授業実施前に、これまでの学びの復習を行い、児童が課題に対する意識を明確に持てるようにすること ・環境学習を単なる出前授業としないように、事前・事後学習に力を入れること ・事後学習として自分たちに何ができるかを考える授業を行うこと <p>学習内容と当日の様子</p> <p>最初に、「日本の優れた水の秘密」をテーマにクイズを交えた講義を実施。</p> <p>次に、「水調査ノート」を使って、児童が身近に「日本の水の秘密」を感じられるよう、地球にある水ほどのくらいか、日本の森は減っているか増えているかなど質問しながら説明。また、森の土の役割等について説明。</p>	

その後、各クラスで、水をきれいにする実験を実施。メチレンブルーで青に染めた水を、①シリカゲル、②活性炭素、③土（粘土質）を混ぜ、ろ過をし、水が透明になっていくの確認。

最後に質問や感想を話し合う時間を持ち、水を大切にするために「私にできること」を考えた。



<講座の様子>

コーディネーターに対する感想

○依頼者

- ・こちらのニーズに合わせて講師を紹介していただきました。
- ・準備物など学校で対応できないものもしていただき、助かりました。
- ・講座内容や準備物等、細かく丁寧に打合せができ、よかったです。
- ・前もって実際に使う資料などお話しができよかったです。
- ・教員だけではつくれない大変りのある授業をしていただけました。
- ・学校と企業との連絡を取り合っただき、とてもありがたかったです。
- ・学校のニーズに合う企業を紹介していただき、子ども達が普段体験できないことができました。
- ・興味深い内容でも、教員では面白さを引き出すには限界があります。専門の方が来てくださるのは大変ありがたいです。
- ・普段は体験できないことを体験でき、子どもの学びに生かしたいから、次回もコーディネート事業を活用したいと思います。

○外部講師

- ・依頼内容は問題なく、満足です。
- ・依頼日程の選択日が1日だけというのは調整しにくいです。
- ・打合せにてきちんと不明点の確認ができました。
- ・学校と直接、対応できると便利ですが、慣れればよいと思います。
- ・もし、補助して頂いた方（コーディネーター）がいなかったら、ぞーっとします。
- ・県や市の教育委員会がまだまだ対応が中途半端なので、環境学習コーディネート事業のシステムは重要だと思います。
- ・講師を引き受けることを会社としても勧めています。

その他

○今後の展開

- ・これからの時代を生きて行く子どもたちが環境を学ぶことはとても大切である。総合学習をはじめ、理科や社会などでも関連付けて環境学習を進めて行く。
- ・普段の生活で水を大切にすることが習慣になるよう、取組を継続できるよう子どもたちに目標を立てさせる。

依頼者	豊川市立萩小学校
タイトル	身近な川と水生生物による水質調査について
<p>コーディネーターへの相談内容</p> <p>○依頼者のご要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年生で総合的な学習の時間で「川」を題材にした地域学習を実施しており、アドバイスがほしい。 ・指標となる水生生物調査と川の汚れの分析を実施できる講師を紹介してほしい。 	
<p>コーディネーターの対応</p> <p>○外部講師の紹介</p> <p>豊川市内で依頼内容に合う施設、豊川市赤塚山公園内ぎょぎょランド（淡水魚水族館） 浅香智也 氏を紹介した。</p> <p>○学習内容の提案</p> <p><講師に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師所属の施設と今回の小学校は、豊川市内の地理的に比較的近い場所にあり、依頼者である小学校担任は「毎年このような調査授業を行いたい」とおっしゃっていたので、今後継続的に施設と小学校がつながり、小学校近くの川の調査が恒例となるようにすること ・事前に川を下見し、採取する場所と判定する広い場所を決めておくこと <p><依頼者に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の授業を単発の環境学習に終わらせないように、学びが積み重なるための事前・事後の学習を組み入れた授業構想を作成。当日の環境学習の前に再度、絶滅危惧種のことや川の環境について復習。事後学習として自分達に何ができるかを考える授業を行うこと ・児童が学んだことや考え、意見をまとめ、学級で共有するための発表会を行うこと ・学びが行動につながるような工夫を授業に加えること 	
<p>学習内容と当日の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水生生物を採取、観察する、話を聞く。 ・採取した生物を、川のきれいさ汚さの指標生物が掲載されている下敷きと見比べながら、川がきれいかどうかを判定 ・下流とのデータを比較 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p><講師の説明を聞く様子></p> </div> <div style="text-align: center;">  <p><上流での生物採取の様子></p> </div> </div>	



<採取した生物を記録している様子>



<下流での生物採取の様子>

コーディネーターに対する感想

○依頼者

- ・身近な講師の方を紹介頂けて、子どもたちも安心して大満足です。
- ・打合せも時間がない中、早々にやって頂けて大満足です。
- ・講座づくりも実際に一緒になってやって頂けて良かったです。
- ・時間のない中で素早く計画、支援して頂くことができてよかった。
- ・これから他の学習でも相談にのって頂きたいです。

○外部講師

- ・時間が短かったですが、身近な川を学習することができて良かったと思います。
- ・学校の先生との連絡に時間がかかってしまう事がありました。
- ・身近な自然を知ってもらうことができて良かったです。
- ・学校と一緒に環境学習が出来ることはいいことだと思います。
- ・今回環境学習コーディネーター事業を初めて知ったので、宣伝などで周知できるといいと思います。

その他

特になし

依頼者	尾張旭市立瑞鳳小学校
タイトル	「川の災害と森林環境」～なぜ、洪水や土砂災害が起きてしまうのか～
<p>コーディネーターへの相談内容</p> <p>○依頼者のご要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年生の環境学習で、「矢田川の環境～水生生物や植物」をテーマにしたプログラムをESDの視点と手法を組み入れて実施したい。 ・環境学習にESDの視点を加えることで、①子どもたちが主体的に取り組む、②総合的な学習の時間と教科との連携、③学校と地域とのつながりの強化、④プログラムを通して子どもの学びを深め、「生き抜く力」を育むことのできるプログラムとしたい。 ・そこで、専門の知見を持つ外部講師からのプログラムづくりのアドバイスと導入部の授業実施を依頼したい。 	
<p>コーディネーターの対応</p> <p>○外部講師の紹介</p> <p>ESD授業づくりの経験者であり、学校での環境学習の実施経験が豊富である「NPO法人日本の森バイオマスネットワーク」理事 唐澤晋平氏を紹介し、「流れる水のはたらき」についての授業内容の希望を受け、「川の災害と森林環境のプログラム」を実施することとなった。</p> <p>○学習内容の提案</p> <p><ESDの視点や手法を交えて授業に取り入れること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の主体性を育むために、参加型・体験型の手法を授業に取り入れること ・環境問題を自分の問題として捉え、「自分事」として認識し、「自分は何をすればよいのか」等について、話し合いの時間を持つこと ・未来の地球、未来の愛知、未来の尾張旭市の環境を想像し、どんな町、環境だったら暮らしやすいか、そのためには今何をすればよいのかについて考え、話し合う時間を持つこと <p><講師に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・流れる水の働き「土を削って運ぶ」をしっかりと押さえること ・地域との連携を図るため、水害の防災MAPを利用すること ・参加型の授業（ワークショップ）を行うことで、得た知識・情報を自分の言葉で表現する場をもつこと <p><依頼者に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業に即した学習内容にするために、依頼者が作成している授業案を外部講師に伝えること ・当日の環境学習の前に再度、水について復習すること ・事後学習として自分たちに何ができるかを考える授業を行い、意見をまとめて発表する場を設けることさらに、実際に行動できるような授業内容に工夫すること ・今回の環境学習が単発の出前授業とならないように、講師と連携し、継続的な学びにすること ・講師の授業づくり、授業の手法を参考にし、他の教科にもESDの視点、手法を組み入れる方法を学び、取り入れること 	
<p>学習内容と当日の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初に、「矢田川の水はどこから来るのか」について、割り箸と洪水のつながりをスライドで説明 ・その後、運動場にある砂山に移動して放水実験を行い、砂が水で削れる様子を観察。実験後、プロジェク 	

トWET「流域探し」を行い、地域を流れる矢田川の水がどこからやってくるか、流域の考え方を学習

- ・「なぜ洪水が起きるのか」では、日本の森林の環境について、広島のと砂災害、東海豪雨のスライドを用いながら説明をし、上流での森の荒廃がと砂災害を招くことを学習
- ・森への理解を深めるために、緑のダムの実験（ふかふかの土とやせた土をそれぞれ容器に入れ、そこへ同量の水を入れて土に留まる水の量と、流れ出てくる水の量を比較する実験）を実施
- ・実験結果を踏まえ、災害を防ぐためにどんなことができるかの話し合い



<授業の様子>

コーディネーターに対する感想

○依頼者

- ・教科書とは違う視点でのアプローチがあり、勉強になった。
- ・地元のことを題材にしてもらい、児童達は関心を持って話を聞くことができた。
- ・コーディネート事業を活用すると児童の視点が広がる。

○外部講師

- ・打合せで担任の先生とESDの考え方について共有することができた。
- ・備品の手配や進行に協力いただけた。

その他

○今後の展開

- ・年間カリキュラムを作成する時に総合的な学習の時間を始め、理科や社会などでもESDの視点と手法を取り入れる。

依頼者	尾張旭市立瑞鳳小学校
タイトル	「水の循環を知る」(プロジェクトWET～驚異の旅～)
<p>コーディネーターへの相談内容</p> <p>○依頼者のご要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年生の環境学習で、「矢田川」をテーマにしたプログラムをESDの視点と手法を組み入れて実施したい。 ・専門の知見を持つ外部講師からのプログラムづくりのアドバイスと導入部の授業実施を依頼したい。 ・理科と社会の授業を関連させた水の授業を実施していないので、これまでの学びをつなげ、水に対する児童の関心を高める授業にしたい。 	
<p>コーディネーターの対応</p> <p>○外部講師の紹介</p> <p>ESD授業づくりの経験者であり、学校での環境学習の実施経験が豊富である「NPO法人日本の森バイオマスネットワーク」理事 唐澤晋平氏に依頼を紹介した。</p> <p>○学習内容の提案</p> <p><ESDの視点や手法を交えて授業に取り入れること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の主体性を育むためには、知識や情報を教える受身の授業だけではなく、参加型・体験型プログラムを授業に取り入れること ・環境問題を自分の問題として捉え、「自分事」として認識し、「自分は何をすればよいのか」等について、話し合いの時間を持つこと ・未来の地球、未来の愛知、未来の尾張旭市の環境を想像し、どんな町、環境だったら暮らしやすいか、そのためには今何をすればよいのかについて、話し合う時間を持つこと <p><講師に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・水の循環をしっかりと押さえ、児童の水への関心を高めること ・参加型の授業(ワークショップ)を行うことで、得た知識・情報を自分の言葉で表現する場をもつこと <p><依頼者に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業に即した学習内容にするために、依頼者が作成している授業案の内容を講師に伝えること ・当日の環境学習の前に再度、水について復習すること ・事後学習として自分たちに何ができるかを考える授業を行い、意見をまとめて発表する場を設けること ・実際に行動できるように促す(親に話す、やったことを発表する等)こと ・今回の環境学習が単発の出前授業とならないように、講師と連携し、継続的な学びにすること ・講師の授業づくり、授業の手法を参考にし、他の教科にもESDの視点、手法を組み入れる方法を学び、取り入れること <p>学習内容と当日の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初に、児童に「水はどこにあるか」を質問。海、川、雲、池、地下水、氷河など水は様々に変化をしながら循環していること、人間や動物の体の約70%は水であること、植物は約90%が水であることを説明 ・その後、水の循環を学ぶ「プロジェクトWET～驚異の旅～」体験型プログラムを実施し、水は生活の中では当たり前にあるが、水は流れ移動することで、姿を変え様々なところを巡っていることを学習 ・最後にまとめの学習として、地球の水がコップ一杯分だったら、私たちが飲める水はどのくらいかを考え、今後どのように水を使うことがよいのかなど、ふりかえりの時間を設け、「私にできること」を話し合った。 	



<授業の様子>



<ワークショップの様子>

コーディネーターに対する感想

○依頼者

- ・コーディネーターが具体的な内容を話してくれたので、分かりやすかった。
- ・教科の枠をこえて、多面的に学習することが素敵だと思う。
- ・今回とてもよかったので、次回も活用したい。
- ・授業で取り扱いたくてもなかなかたくさん時間をとれないのが現状としてあるので、このような機会があるのはありがたい。

○外部講師

- ・打合せで、これまでの学習内容と先生の要望を共有できたため、プログラムが組みやすかった。
- ・学校教育の場に外部の人間が入ることは、児童にとっても教員にとっても良い学びと刺激になると思う。

その他

○今後の展開

- ・情報や知識だけを教えるのではなく、体験を通して体で理解することで学びが深まるので、今後の授業でも体験型を取り入れていく。
- ・学校全体の年間カリキュラムをつくる時から外部講師に参加してもらい、1～6年の各レベルに応じて、いつ、どのように出前授業をいれるか検討する。

依頼者	日進市立西小学校
タイトル	「ふるさと日進～西小を囲み自然環境に目を向けて～」ビオトープ、天白川について学ぼう！
<p>コーディネーターへの相談内容</p> <p>○依頼者のご要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間を活用し、「ふるさと日進～西小を囲む自然環境に目を向けて～」をテーマにグループ学習を行っている。①「ぶどう園（学校内） 生育、観察日記、収穫」、②「ビオトープ（学校内） 生き物、植物」、③「天白川 観察記録、生き物、ゴミ拾い」の3つのグループで学習をし、学習発表会、宣言、行動につなげたい。 ・②③のグループの講師又は専門家を紹介してほしい。 	
<p>コーディネーターの対応</p> <p>○外部講師の紹介</p> <p>依頼者から、「生態系と川の水質等の知識（情報）を得て、地域の自然について学び、その大切さを知り、自分たちにできる事を考えるような授業を実施したい」との希望があったため、日進市で環境活動を行っている「NPO 法人にしん市民環境ネット」に依頼した。その中でも、『「天白川の始まりを大切にしたい」源流域元気プロジェクト』の担当である、株式会社 名東水園 代表取締役 吉田 徳巨氏を紹介した。</p> <p>○学習内容の提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・②のビオトープと生き物、③の川の生き物とごみ拾いは、「水環境」「生物多様性」というテーマで括り、一緒に講座を行うこと ・「地域の自然を知る」という内容なので、学年全員が授業に参加すること <p><講師に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の地名等を取り入れ、児童が身近に感じるように具体的に話すこと ・写真などを取り入れ、児童が想像しながら学びを深められるような工夫をすること ・教員が求める内容をプログラムに組み入れること ・知識・情報を体感するため、参加型の授業（ワークショップ）とすること ・環境問題を自分の問題として捉え、「自分事」として認識し、「自分は何をすればよいのか」等について話し合う時間を持つこと ・未来の地球、未来の愛知、未来の日進市の環境を想像し、どんな町、環境だったら暮らしやすいか、そのためには今何をすればよいのかについて、話し合う時間を持つこと <p><依頼者に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業に即した学習内容にするために、依頼者が作成している授業案の内容を外部講師に明確に伝えること ・環境学習を単発の出前授業としないように、事前・事後学習につなげて、授業設計をすること ・今回の学びが継続的に積み重なるように、講師と連携すること ・学んだことを、日々の生活に活かせるように、行動できるように促す（親に話す、気づきや学びを多くの人に伝える場をもつ等）こと ・これからの日進市立西小の自然環境の未来を想像し、話し合う機会を持つこと 	

学習内容と当日の様子

- ・最初に、天白川の現状、水が汚れてきたために水辺に棲む生き物の数がかなり減少していること、水の汚れの原因について説明。川の水質の保全、川に棲む生きものや生態系を守るために、一人ひとりが川に関心を持つことの大切さを説明
- ・ビオトープについて説明
- ・最後にまとめとして、「天白川の源流は日進市であり、日進市に住む私たちが天白川を大切に思い、守らないといけない」との説明後、きれいな水が流れる川にするために「私たちにできること」の話し合い



<授業の様子>

コーディネーターに対する感想

○依頼者

- ・大満足
- ・適切な講師を紹介していただけるため、今後も活用したい。

○外部講師

- ・日進市での環境活動を大切に行っている私達にぴったりの依頼内容であった。
- ・学校で行っている授業内容を聞くことができたので授業が組み立てやすかった。
- ・コーディネーターが打合せでしっかり内容を詰めてもらえたので、講座が行いやすかった。
- ・コーディネーターがいることで、教員側の教えてほしい内容を聞くことができた。また、授業にも立ち会ってもらえたので、心強かった。

その他

特になし

依頼者	愛西市立勝幡小学校
タイトル	「わりばし」ってどうやってできるの？
<p>コーディネーターへの相談内容</p> <p>○依頼者のご要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年生の環境学習で「リサイクルの体験学習」を実施しており、そうしたテーマで話ができる講師を紹介してほしい。 ・10月から図工の時間に、使用済みの割り箸を用いた工作（自分の住んでみたい家）を開始するため、割り箸をテーマに間伐材や森林についての環境学習の場を設けたい。 	
<p>コーディネーターの対応</p> <p>○外部講師の紹介</p> <p>小中学校で、環境全般、特に森林に関する内容での環境学習を実施している「NPO 法人日本の森バイオマスネットワーク」理事 唐澤晋平氏を紹介した。</p> <p>○学習内容の提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験を伴う学習を実施することで学びが深まり具体的な行動につながるため、体験も含めた環境学習講座の実施すること ・体験を含めたプログラムを追加したため、当初1限だけの授業時間を予定だったが、2限に変更すること ・教員の希望に応じて、「割り箸がどのように作られるのか、森林の役割、間伐材についての話を入れたプログラム案を作成すること <p><講師に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による授業の学びが今後の授業にも活かされるように、事前学習、事後学習を念頭においた授業内容とすること。また、そのために、学びが継続的に積み重なるためにはどうしたらいいのかを教員と話すこと ・行動（実践）を促すための動機づけとなる授業内容（プログラム）にすること <p><依頼者に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境学習に即した内容にするために、これまでの授業内容とねらい、希望を講師に明確に伝えること ・環境学習を外部講師による単発の出前授業にならないように、全体の授業構想の中で位置づけ、事前・事後学習で学びを深めること ・「森林の役割」の話につながるため、広島の災害についての話を事前に児童にすること ・事後学習として、自分たちに何ができるかを考える授業を行うこと ・児童が学びの意見をまとめて発表する場面を設けること ・学びを行動へと促すための授業を実施する（親に話す、授業後に実施した環境活動を発表する等）こと <p>学習内容と当日の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初に、「日本の森」の状況について説明 ・次に、割り箸には様々な種類があり、作られている状況や環境の違いについて説明。1円の中国産の割り箸と、10円の国産の割り箸の実物を使用して、木の匂いや質感などの違いを感じる。 ・その後、日本の森林を守り、豊かにするにはどうすればいいかなど、「私にできること」の話し合い ・最後に、丸太をチェーンソーで切るデモンストレーションを行い、林業について説明 	



<授業の様子>

コーディネーターに対する感想

○依頼者

- ・コーディネーターがいてくれたおかげで、話しやすい雰囲気となった。
- ・子どもたちに教えてほしい内容を授業内容に盛り込んでいただいた。
- ・環境学習コーディネート事業は、4年生の環境教育の一環として活用できるのでありがたい。


○外部講師

- ・学校側の要望にマッチしており、なおかつ、印象に残る内容を実施することができた。

その他

○今後の展開

- ・森林の学習を行うにあたり、図工だけではなく、理科や社会などでも行うようにする。
- ・自分たちができることを考える習慣をつけるために、授業の中に考える時間をつくる。

依頼者	日進市立西小学校
タイトル	「ふるさと日進～西小を囲み自然環境に目を向けて～」 ぶどう園（学校内）について
<p>コーディネーターへの相談内容</p> <p>○依頼者のご要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間を活用し、「ふるさと日進～西小を囲む自然環境に目を向けて～」をテーマにグループ学習を行っている。①「ぶどう園（学校内） 生育、観察日記、収穫」、②「ビオトープ（学校内） 生き物、植物」、③「天白川 観察記録、生き物、ゴミ拾い」の3つのグループで学習をし、学習発表会、宣言、行動につなげたい。 ・①のグループに適任の講師を紹介してほしい。 	
<p>コーディネーターの対応</p> <p>○外部講師の紹介</p> <p>日進市を始め、自然農園を通じた環境学習に取り組んでいる「NPO 法人にしん市民環境ネット」理事・事務局長 寺田裕美氏を紹介した。</p> <p>○学習内容の提案</p> <p><講師に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識・情報を体感するため、参加型の授業（ワークショップ）を行うこと ・教員が求める内容をプログラムに組み入れること ・地域の地名等、児童が身近に感じるように具体的に話すこと ・児童が想像しながら学びを深められるように工夫をすること <p><依頼者に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業に即した学習内容にするために、依頼者が作成している授業案の内容を外部講師に明確に伝えること ・環境学習を単発の出前授業としないように、事前・事後学習につなげて、授業設計をすること ・今回の学びが継続的に積み重なるように、講師と連携すること ・学んだことを、日々の生活に活かせるように、行動できるように促すこと（親に話す、気づきや学びを多くの人に伝える場をもつ等） ・これからの日進市立西小の自然環境の未来を想像し、話し合う機会を持つこと 	
<p>学習内容と当日の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クイズを交えた「ぶどうのお話」や、講師の「農業体験を交えた環境学習」を始めた経緯、農薬の歴史を含めた「農薬の話」をしていただいた。 	
	
<p><授業の様子></p>	

コーディネーターに対する感想

○依頼者

- ・大満足です。
- ・環境と一口に行っても、内容は多岐に渡るため、コーディネーターの存在は教育現場では重要だと思います。

○外部講師

- ・事前に現場を見ることができてよかったです。
- ・コーディネーターがいることで、子ども達に何を伝えるかということを先生としっかり話し合うことができた。当日のスケジュールもしっかり作ってもらったので、動きやすく、授業にも一緒に立ち会ってもらえたので、心強かった。丁寧に的確に寄り添っていただけよかったです。
- ・学校に関わることができてとても感謝しています。

その他

○今後の展開

- ・農薬の専門家にも授業をしていただく予定となっており、その後、校内で学習発表会、宣言、行動と続けて、4年生としての学習を終了する。

依頼者	弥富市立栄南小学校
タイトル	「資源を大切にしよう」という気持ちを育む体験学習「ガラスビンエッチング」
<p>コーディネーターへの相談内容</p> <p>○依頼者のご要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの「資源を大切にしよう」という気持ちを育むことができるリサイクルの体験学習プログラムと実施できる講師を紹介してほしい。 ・体験学習は必ず実施してほしい。 	
<p>コーディネーターの対応</p> <p>○外部講師の紹介</p> <p>イベント等でリサイクル工作をしている企業や、環境 NPO のうち、児童の住む地域のごみを収集している「海部地区環境事務組合 八穂クリーンセンター」を紹介した。</p> <p>○学習内容の提案</p> <p><ESD の視点や手法を交えて授業に取り入れること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験だけではなく、実際の行動に結び付けるため、体験と講義の授業にすること ・環境問題を「自分事」として認識し、「自分は何をすればよいのか」等について、ペア学習、グループワーク、全体討論など話し合いの時間を持つこと ・ごみとはなにか、どういう環境だったら暮らしやすいか、そのためには今何をすればよいのかについて、話し合う時間を持つこと <p><講師に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・工作体験で終わらない学習にするため、以前、児童が施設見学した際のふりかえりを行うこと ・「自分達には何ができるのか」を考え、行動に結びつくようなプログラムにすること ・ごみ問題や資源枯渇の現状をわかりやすく説明すること ・リサイクルだけではなく、3Rの説明をし、理解を促すよう工夫したプログラムにすること <p><依頼者に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの授業での学びを重ねるために、依頼者が作成している授業案の内容を外部講師に明確に伝えること ・単発の出前講座とならないように、事前・事後の学習に力を入れ、当日の授業の前に、リサイクルや八穂クリーンセンターのことをふりかえる授業を持ち、事後学習として、児童が自らできる事は何かを話し合う時間を持つこと ・ごみを減らすために「自分にできる事」を考えて、意見をまとめ、発表する時間を持つこと ・冬休みに活動をしたことを発表すること ・学んだことが日々の行動につながるような事後の授業を工夫すること 	
<p>学習内容と当日の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座名「ガラスビンエッチング」 ・最初に、八穂クリーンセンターにおけるビンの処理方法について説明 ・次に、ガラスビンエッチング体験を行うとともに、体験の際に使用した薬剤はボトルに戻し、何度も使うことを説明し、資源を大切にすることを伝える。 	

- ・最後に、体験を踏まえ、「私にできること」を話し合う。



<授業の様子>

コーディネーターに対する感想

○依頼者

- ・打合せ等、丁寧に行ってもらって、実際に行われる講座内容が分かったので大変満足した。
- ・教員側の意見もプログラムに反映されるように、話をしてもらったのでよかった。
- ・環境学習には体験が欠かせないが、教師に専門的知識や技能が備わっていない場合が多いと思うので、この事業をぜひ活用していきたい。

○外部講師

- ・他の出前教室で同じ題材をしているため、出前教室を引き受けやすかった。
- ・他の出前教室は打合せをあまり行わないので、出前教室の前に打合せでき、また、コーディネーターが親身になって打合せしてくれたため満足、満足であった。
- ・コーディネーターがいるおかげで学校や担任とのかかわりも打合せが出来てとてもよかった。
- ・依頼する側と依頼される側の調整が大変だと思うが、対応がとてもよかったなと思った。

その他

○今後の展開

- ・毎年行っている八穂クリーンセンターの見学と、ガラスエッチング体験を関連付け、学びをより深くする。
- ・八穂クリーンセンターが開催する「ガラスビンエッチング」が今後も継続できるよう、学校の年間カリキュラムに位置付ける。
- ・3Rを普段の生活で習慣化できるよう、子どもたちが取組を継続する目標をたてるよう促す。
- ・ガラスエッチング体験は子ども達の反応もよく、環境に対する意識も向上した。今後の継続的な活用を考えたい。